

第44回例会報告(5月15日)

【出席報告】

・会員数 62名
 ・当日出席率 76.92%
 ・出席数 43名
 ・前々回修正出席率 100% 25回目
 ・欠席数 19名
 <欠席会員> 初田、檜垣(巧)、笠間、川上、久米、松木、村上(修)、越智(務)、白石(天)、竹田、田中、八木
 [免除会員] 原、松本、中川、瀬野、曾我部、宇高、吉田
 <5/1欠席補填> (4/26地区セミナー) 飯、(4/27地区協) 伊藤、西信、尾越、(4/28今治北) 濱田、(4/30東予) 天野、寺町、(4/30松山東) 原田、(5/2道後) 佐伯、(5/6今治南) 檜垣(俊)、板脇、川上、野間、(5/6IAC) 佐々木、(5/12今治北) 笠間

会長報告・佐々木善堯PGの本葬が5月30日(金)13:00~、前神寺で執り行われます。
 ・明後日から松山で地区大会が開催され、当クラブから30数名が出席します。
 ・玉井英俊氏(株)愛媛銀行今治支店 取締役支店長)の入会式
 幹事報告・ロータリーレート変更のお知らせ; 6月1日から1ドル116円(現行122円)
 ・回覧物; RYLAセミナー報告書、ハイライトよねやま、他
 親睦活動委員会報告・天野公朗会員からお知らせ; 6月25日(水)に、以前所属していた京都山科RC会員が松山に来るので、当クラブ会員とのゴルフコンペの案内がありました。ぜひ、大勢の参加をお願いします。
 職業奉仕委員会報告・7月11日(金)に今治で日本学術会議(中四国地区会議代表幹事/佐藤晃一会員)の公開講演会「いのちを育む 食・農・教育」が開催されます。一般市民を対象としているため、愛媛新聞に広告を出すのでご協力をお願いします。
 ロータリー情報委員会報告・ロータリーミニ情報(佐伯亮治委員)
 1905(明治38)年2月23日、シカゴで弁護士のパール・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鋳山技師のガスターバス・ローア、仕立屋のハイラム・ショーレの4人が集まって会合をもったのがロータリーの始まり。まだ馬車が幅を利かせていた頃で、ライト兄弟が飛行機で初めてわずかな距離を飛んだ時代。日本では日露戦争の頃。会合を持ち回りにしていたことから「ロータリー」と名付けられ、5番目の入会者 印刷屋のハリー・ラグルスが歌を歌うことを始めたのがロータリーソングの始まり。

社会奉仕委員会アワー 卓話; 滝口伸一氏 「お接待の心」
 接待とは人をもてなすことで、鎌倉時代に旅人にお茶を出してもてなしたのが始まり。四国遍路のお接待は四国固有の文化で、他県に誇ってよい文化だと思う。お接待はお遍路さんにお金や食べ物や品物を差し上げて、勇気づけ、なぐさめることであるが、差し上げるものは物に限らない。車に乗せてあげる、泊めてあげる(善根宿)のも接待である。接待を受ける側にも、接待を受けたら拒んではいけないというルールがある。接待をする動機としては、お大師信仰によるものと、ボランティア精神・奉仕の心によるものがある。今、平成の遍路ブームと言われている。現在の遍路は明るく、豊かになった。かつては難病におかされた人や家庭不和に苦しむ人などが多く、遍路には暗いイメージがあった。ハンセン病患者も多かったが、四国ではこういう人たちを受け入れるあたたかい伝統があり、その伝統が今も続いている。仏教の小我に対する大我(自分一人だけでなく周囲全体を考える)、般若心経の教え(ともに生きる「共生」の考え方)は大切で、すばらしいと思う。明德短期大学では一昨年からは毎年、「遍路の体験学習」を実施している。参加した学生のレポートを読むと、「接待に勇気づけられた」「人の優しさがよく分かった」「自分に対する試練を乗り越えた」「周囲の人を気遣うようになった」との感想が必ず書かれている。ボランティア活動は困っている人を助けたいという人間の善意に基づくものである。その原点はお接待にあると思う。これはロータリー精神にもつながると思う。

<ゲスト> 月刊「へんろ」編集者 滝口伸一氏

次回例会(5月22日)

〔地区大会報告〕

<会員誕生日> 冠 康秀氏(5/29) 久米 操氏(5/30)
 <夫人誕生日> 濱田世志夫氏(5/22) 松木 徹夫氏(5/23)
 <入会記念日> 香西 幹夫氏(5/23)

〔献立 ; 国際ホテル〕